

三鴨小だより

学校教育目標
やさしい子 かしい子 たくましい子

第25号

発行日 令和元年12月20日
発行者 三鴨小学校長 廣田 昌英

処世術

4年生が国語の授業で接続詞の勉強をしていました。「明日は晴れるらしい。」の後に、「だから」という順接接続詞を使ってつなげる文章作りです。4年生の子供たちにとっての王道は「明日は晴れるらしい。だから、外で遊ぼう。」といった具合でしょうか？そんなことを考えながら子供たちのノートをのぞいてみると、予想通りに「外で遊ぼう。」に近い文章が多数を占めていました。その他、「傘は要らない。」も多かったですね。文章ができた子は次々に岡先生のところまで見せに行き、丸を付けてもらっています。そんな中、ある子がつぶやきました。「傘をゴミ捨て場まで捨てに行つて、勉強なんかしないで遊ぼう。」……え？君は晴れるたびに傘を捨てちゃうの？晴れると勉強しないの？とか思っているうちに立ち上がったその子は、岡先生から何のクレームも付けられずにノートに丸をもらって戻ってきました。不審に思つてのぞいてみると……「傘は要らない。」とだけ書かれていました。なんだよ、若いのに無難にまとめやがったな！

縁の下には

この日の5年生の国語の授業は「わかりやすく伝える」がテーマでした。普段から数名の男子による無秩序な発（暴？）言が多い5年生、担任の河内先生とどのようなやりとりが展開されるのかと見守つてみると……

河内「（教科書の）この文章のおかしなところを見つけてみましょう。」

A君「ええ、俺、そういうの大っ嫌いなんだよなあ。」

B君「なんでそんなの見付けなくちゃならないの？」

C君「どこどこ？どの文章？」

こんな具合に、心の中に留めておくべきセリフが大声で飛び交います。困ったものです。しかし、まったく不思議なことに河内「それではこの文章をみんなで読んでもみましょう。」

と言われると、みんな一斉に声を合わせて読み始めるのです。まったく何なんだか……

さらに、この文章では主語と述語が噛み合っていないところに気付いて欲しいのに、A君「ネズミが一晩で大金持ちになるのがおかしなところですよ！」

B君「ネズミが一晩で大金持ちになつたつ

て全然面白くないし！」

C君「どうすれば大金持ちになれるの？」と、まったく本質に近付きません。河内先生も「いやいや、そういうことじゃなくて……」と苦笑いです。そんなとき、1人の女子が、

「この文章は、『おもしろい場面は……』から始まっているのに、それがどこなのかを言っていないところがおかしいですよ。」

と、核心を突いてきました。河内先生、助かったね。やっと国語らしくなったね。5年生の女子のみんな、これからも男子たち（と河内先生）をよろしく頼むよ！

肩透かし

この日の3年1組の算数は、みんなで板橋先生の特製プリントに挑みました。3桁×1桁の筆算問題15問です。板橋先生も一緒になって、よ～い、スタート！教室に聞こえるのはかすかな鉛筆の音ばかり。そんな中、突然「終わった！」と板橋先生の勝利宣言が響き渡りました。開始後わずか3分程度の出来事に、子供たちはみんなビックリです。中には3問くらいしか終わってない子もいるはずですよ。そこである子が尋ねました。「先生はどうしてそんなに早いのか？」「それはね……」子供たちが固唾をのむように注目する中、板橋先生はさも得意気に言葉が続けました。「みんなの3倍くらい生きているからです。」……おい！ドヤ顔で何言つてんだよ！

底力

前日の跳び箱の授業の際に、どういふわけか野球部3人だけが負傷し、内1人は翌日から松葉杖を用いて登校するというアクシデントに見舞われた6年生。この日は1、2時間目に調理実習、その後のみかもっ子タイムでは音読発表と大忙しでした。調理実習は楽しくておいしかったのですが、後輩たちを目の前にしての本校最後の音読発表では、おそらく相当なプレッシャーが掛かっていたことなのでしょう。しかし、見事にその重圧をばねのけ、後輩に「とても聞きやすかったです。私もこんな発表ができるようになります」と言わしめる、見事な発表を披露してくれました。6年生諸君、さすがだったよ。見事に今年を締めくくってくれたね。卒業が迫ってきて寂しいけれど、来年もよろしくね！